小・中・高等学校 新学習指導要領の変化
＜英語＞

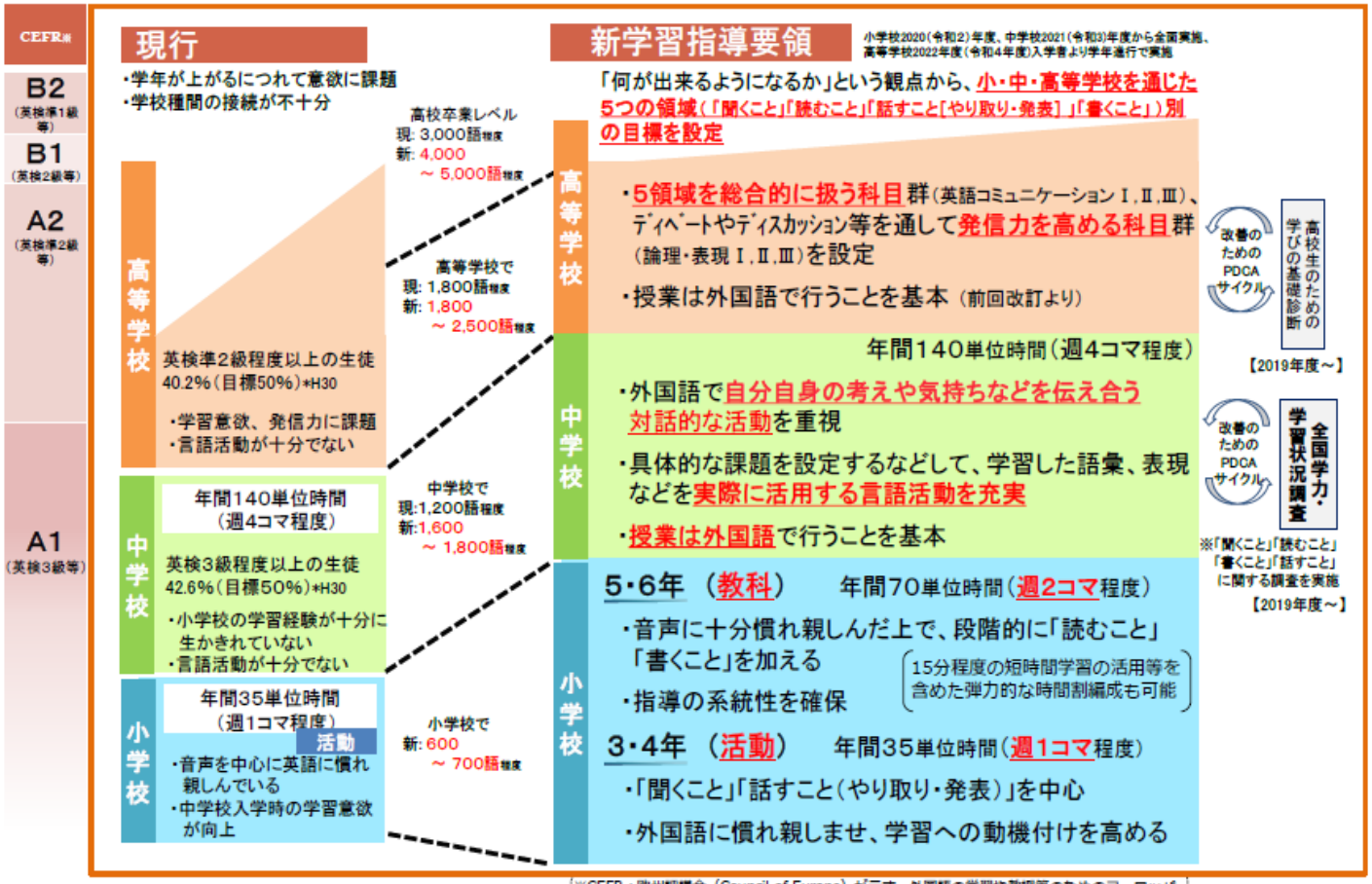
株式会社ラーンズ

1．外国語教育の抜本的強化のイメージ

株式会社ラーンズ

小学校中学年で「外国語活動」，高学年で「外国語科」を導入。小・中・高等学校一貫した学びを重視。

外国語教育の抜本的強化のイメージ



https://www5.cao.go.jp/keizaishimon/kaigi/special/reform/wg7/20191203/shiryou1_4.pdf

2．小学校・中学校・高等学校　学習指導要領改訂の要点

株式会社ラーンズ

小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実し，生徒の英語力を向上。4技能・5領域ベース。
小学校で英語に触れる時間が，約3倍に増加！　文法事項の学年前倒し。　中学からはオールイングリッシュ。

	ポイント	時間数の変化	語彙数の変化
小学校	■３，４年では「聞くこと」「話すこと」中心，５，６年年では「読むこと」「書くこと」が追加。 ■中学の一部の内容が移行（助動詞（can, doなど）で始まる疑問文／不規則動詞の過去形（I went to …など）	活動型（３，４年）：年間35単位時間（週1コマ程度）＋教科型（５，６年）：年間70単位時間（週2コマ程度） （現行＝活動型（5，6年）：年間35単位時間（週1コマ程度）※「総合的な学習の時間」などを活用）	600～700語（旧：活動型450語）
中学校	■授業は英語を基本 ■高校の一部の内容が移行（主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞，感嘆文，現在完了進行形，仮定法など）	年間140単位時間（週4コマ程度） （現行：同じ）	1,600～1,800語程度 （現行：1,200語程度）
高等学校	■科目構成の変更・新設 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ／論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（※旧＝コミュニケーション英語基礎／コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ／英語表現Ⅰ・Ⅱ／英語会話）		1,800～2,500語程度 （現行：1,800語程度）

小・中学校　学習指導要領のポイント

３．小学校　学習指導要領のポイントー①

株式会社ラーンズ

目標：外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指す。

2020年度より，従来小学５・６年生を対象として行われていた「外国語活動（英語）」の授業が前倒しとなり，小学３・４年次からスタートしています。小学5・6年次からは英語が教科となり，「外国語科（英語）」が導入されている。小学校で600～700語の語彙を履修する。

■小学校3,4年生　外国語活動　（学級担任が中心となって指導）

・外国語活動の目標は、「コミュニケーション能力の素地となる資質・能力を育成すること」となり、**「聞くこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」の3領域**を学ぶ。

・検定教科書はない。

■小学校5,6年生　外国語科　（学級担任＋小学校英語専門の教員が指導の予定）

・外国語科の目標は、「初歩的な英語の運用能力を養うこと」となり、外国語活動で学んできた**「聞くこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」に「読むこと」「書くこと」が加わった5領域**を学ぶ。

・検定教科書（全6社：1社撤退・1社新規）を使用，現行の中学1年の学習内容が多く含まれる。

・「知能・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から**評価**され，学校ごとに評価方法が決定される。（**成績**がつく）

3．小学校　学習指導要領のポイントー②

株式会社ラーンズ

中学から小学校に移行された内容：
文字及び符号／文法事項（文・文構造）／特有の表現がよく使われる場面　など

■文字及び符号　（ア）活字体の大文字，小文字
（イ）終止符や疑問符，コンマなどの基本的な符号

■文法事項

（ア）文　a　単文
b　肯定，否定の平叙文
c　肯定，否定の命令文
d　疑問文のうち，be動詞で始まるものや助動詞(can, doなど）で始まるもの，疑問詞（who, what, when, where, why, how)ではじまるもの
e 代名詞のうち，I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの
f 動名詞や過去形のうち，活用頻度の高い基本的なものを含むもの

（イ）文構造　a　［主語＋動詞］
b　［主語＋動詞＋補語］のうち，主語＋be動詞＋名詞・代名詞・形容詞
c　［主語＋動詞＋目的語］のうち，主語＋動詞＋名詞・代名詞

■使用場面　あいさつ・自己紹介・電話での応答・買物・道案内・旅行・食事　など

４．中学校　学習指導要領のポイントー①

株式会社ラーンズ

目標：外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指す。

■現行課程からの変更点　○は高校と共通

○「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱に沿った目標が示された。

○４技能について５つの領域ごとに到達目標が示された。（「話すこと」は［やり取り］と［発表］に分けられた）

○５つの領域全体として統合的活動が示されるようになった。

・語彙については，現行の1,200語から1,600～1,800語に。

・「聞く」→「読む」→「話す」→「書く」の順で示されるようになった。（現行：聞く→話す→読む→書く）

○小学校や高等学校における指導との接続に留意することが示された。（高校では，小学校・中学校との接続に留意。）

○「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることが示された。

○小学校で学習した語句や表現の定着を図ることが示された。（高校では「小・中学校の言語材料も扱う」）

○授業は英語で行うことが基本であることが示された。（高校は現行課程よりすでに）

・他教科や学校行事と関連付けることが示された。

○「意味を理解できるように指導すべき事項」と「表現できるように指導すべき事項」に留意して指導することが示された。

・言語活動の中で繰り返し活用させることで，文法事項に対する気づきを促す指導をすることが示された。

○生徒が主体的に学べるように「学習の見通しを立てたり，振り返ったりする」ことが示された。

・筆記体を指導することもできる

・辞書の使い方に慣れ，活用できるようにする　　など

４．中学校　学習指導要領のポイントー②

株式会社ラーンズ

「表現をより適切でより豊かにするなどの目的」で，中学に新たに追加された内容：
文構造・文法事項／言語活動及び言語の働きに関する事項

■文構造（〇は高校から移行してきたもの）

・感嘆文のうち基本的なもの

〇主語＋動詞＋間接目的語＋thatで始まる節・Whatなどで始まる節

〇主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞

・主語＋be動詞＋形容詞＋thatで始まる節

■文法事項（〇は高校から移行してきたもの）

・接続詞・助動詞・前置詞

〇現在完了進行形

〇仮定法のうち基本的なもの

■言語活動及び言語の働きに関する事項

・「話すこと［やりとり］［発表］」ともに，英文の暗記ではなく，メモなどを活用して「即興で話す」趣旨が示された。

・「あいさつ」は小学校に移動し，「手紙や電子メールでのやりとり」が追加された。

・「歓迎する」「事実を伝える」「仮定する」「命令する」が追加された。

5．高校入試への影響

株式会社ラーンズ

高校入試への影響：先行実施の有無による有利・不利／4技能化／思考力・判断力・表現力の重視などが予想される。

■先行実施の有無での有利・不利：小学校の先行実施（2018年時点で3割）では新学習指導要領全面実施後と同様の時間数で授業が行われており，その他の小学校でも英語の授業が年間で15単位時間以上増加。先行実施のある小学校ではすでに「教科としての英語」を学んでおり，中学校入学段階での英語の学力に差が生じることが懸念され，高校受験で有利となる可能性がある。

■移行措置

高校で学習していた文法の，中学への移行に対処した教材「Bridge」

https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1414459_00002.htm

■4技能化：すでに動きがある一方，コロナの状況によっては進みにくい状況も予想される。

・東京都：都立高校入試におけるスピーキングテスト（2023年2月～の予定）

・大阪府：難関校では「聞く」「書く」「読む」の能力が均等に。1分間に読まなければならない語数が約100語。問題文もすべて英語であるなど高難度の出題。

・福井県：民間の資格・検定試験の結果により，英語試験の得点に加点。

■思考力・判断力・表現力：読解の長文化や，英作文の増加が予想される。

・都立西：高難度の英単語，文章全体からの類推が求められる読解問題を出題。

・都立青山：正答の選択肢の数が指定されてない問題や，条件付き英作文を出題。（新しい情報を加える）

高等学校　学習指導要領のポイント

6．高等学校　学習指導要領のポイントー①

株式会社ラーンズ

目標：・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して，情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

■現行課程からの変更点（中学との共通点は，中学のページを参照）

●科目編成

改訂後

科目	標準単位数	必修科目
英語コミュニケーションⅠ	3	○
英語コミュニケーションⅡ	4	
英語コミュニケーションⅢ	4	
論理・表現Ⅰ	2	
論理・表現Ⅱ	2	
論理・表現Ⅲ	2	

現行

科目	標準単位数	必修科目
コミュニケーション基礎英語	2	○
コミュニケーション英語Ⅰ	3	
コミュニケーション英語Ⅱ	4	
コミュニケーション英語Ⅲ	4	
英語表現Ⅰ	2	
英語表現Ⅱ	4	
英語会話	2	

●語彙数　高等学校で1,800語⇒高等学校で1,800～2,500語

6．高等学校　学習指導要領のポイントー②

株式会社ラーンズ

科目編成のポイント：「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が新設。
コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ→英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲへ。
コミュニケーション基礎英語，英語会話は消える。

共通	小・中・高等学校一貫した学びを重視して外国語能力の向上を図る目標を設定し，目的や場面，状況等に応じてコミュニケーションを図る力を着実に育成。
英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ	【5領域】 ・総合的な言語活動を通して「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やりとり］」「話すこと［発表］「書くこと」の力をバランスよく育成するための科目 【語彙】 ・英語コミュニケーションIは、小・中学校で学習した語に400～600語程度の新語を加えた語。 ・英語コミュニケーションIIは、英語コミュニケーションIに700～950語程度の新語を加えた語。 ・英語コミュニケーションIIIは、英語コミュニケーションIIに700～950語程度の新語を加えた語。
論理・表現Ⅰ 論理・表現Ⅱ 論理・表現Ⅲ	【3領域】 ・「話すこと［やりとり］」「話すこと［発表］「書くこと」において，発信力の強化に特化した科目 ・「話すこと［やりとり］」の活動例：ディベートやディスカッションなど ・「話すこと［発表］の活動例：スピーチやプレゼンテーションなど

６．高等学校　学習指導要領のポイントー③

株式会社ラーンズ

高校に新たに追加された内容・変更された内容・削除された内容等は以下の通り。

■新たに追加された内容（文法事項）

・接続詞の用法
・前置詞の用法

■変更された内容

・「動詞の時制など」→「動詞の時制及び相など」

■削除された内容

・代名詞のうち，itが名詞用法の句及び節を指すもの
・分詞構文

■中学校に移行された内容

・現在完了進行形
・仮定法のうち基本的なもの
・主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞

６．高等学校　学習指導要領のポイントー④

株式会社ラーンズ

指導計画の作成にあたっての留意点について（新設内容）

・小学校や中学校における指導との接続に留意すること。

・主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。

・生徒の多様性に応じて学習負担に配慮すること。

・言語活動を行う際は，既習の語句や文構造，文法事項などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

・言語活動などにおいて国語科と連携を図り，日英の言語，歴史，文化，習慣などの比較の視点を持って指導すること。

・他の教科で学習した内容と関連づけるなどして，英語を用いて課題解決を図る力を育成する工夫をすること。

・単に英語を日本語に，または日本語を英語に置き換えるような指導とならないよう，意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れること。

・文法指導については，実際のコミュニケーションにおいて活用できるように，効果的な指導を工夫すること。

・話すことや書くことの指導に当たっては，目的や場面，状況などに応じたやり取りや発表，文章などの具体例を示した上で，生徒がそれらを参考にしながら自分で表現できるよう留意すること。

７．高校指導への影響

株式会社ラーンズ

・小学校での英語の実施状況に差がありつつ，家庭での早期英語学習への取り組みの差もあることが予想される。中学校でも，家庭環境により，学力差が生じることも予想される。したがって，高校スタート時に，すでに学力差がついていることが予想される。

・中学校での「聞く」「読む」「話す（やりとり，発表）」「書く」の一連の学習活動を高校でも引き続き求められる。「聞く」「読む」中心の学習ではなく，生徒が主体的に英語を活用する指導が求められる。

・学びに向かう意欲の面をどう評価するか，また，他教科と関連付けた学習をどのように実行するか，が課題となる。